

# べっかい 議会だより



65

笑顔とまごころで診療 獣医の技と心を受け継ぐ

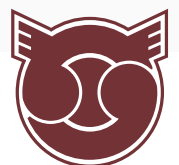
## 特集

平成25年度予算を徹底審議 ..... 2

議会だよりモニターに聞く ..... 7

町政のここが聞きたい ..... 8  
一般質問（中村・西原・木嶋・瀧川・森本の5議員）

シリーズ 志を受け継ぐ 根室地区農業共済組合 さくらいなおと 櫻井直人さん ..... 18



2013.5.1  
北海道別海町議会

# 予算審査特別委員会で 慎重に審査されました

新年度予算が審議される3月定例会では、議員全員による予算審査特別委員会(松原政勝委員長)が設置されます。本会議で提出された平成25年度予算案が、3月13日・14日の2日間にわたって1項目ごと慎重に審査されました。

▼生涯学習の基金積立金五千万円の積立目標額とこの金額の根拠は。

▼中央公民館の建替え計画を二十六年から複数年度で予定しています。

しかし、有利な起債が見込まれず、多額の事業費がかかることから、積める限りは積んでいきたい考えです。

▼家畜ふん尿貯留施設整備事業三千万円は、どのような貯留施設を考えていますか。

▼昨年のふん尿流出事故を受けて、昨年九月に予算を計上し対策をとりましたが、今年度も対策の必要な六十戸が対象です。シートラグーン、堆肥盤や貯留槽などをあわせて、一戸当たり五十万円を上限として助成するものです。



別海町花いっぱいコンクールで最優秀賞を受賞した西春別駅前連合町内会の花壇

▼公衆浴場確保事業の二百万円の目的と対象軒数は。

▼公衆浴場の確保を図り、住民の利用機会の確保により公衆衛生の向上を目的とした助成事業です。

対象軒数は三軒ですが、入浴客数や営業実績に基づいて助成していきます。

▼新規就農事業三事業の内容は。

▼公社事業の設計費に

三戸分二百二十五万円。

国の助成制度の経営開始型に一戸当たり百五十万円の十一戸分で千六百五十万円。

町単独事業で一戸当たり三百万円の二戸分六百万円です。

▼主要幹線道路に花が少ないので、花のあるまちづくり事業を活用して整備すべきでは。

▼ご指摘のとおりですが、そうした意見も踏まえて、花いっぱい街になるように努力し



子どもたちにそば打ちの技を伝える美原子ども会そば学習に協働のまちづくり補助事業が活用されました

▼第六次別海町総合計画の見直しが行われ、その中にアンケート実施があります。内容と範囲をお知らせください。

ていきたいと思えます。

▼多くの階層の住民を対象にしたアンケートを考えています。

内容については検討中ですが、四年間の進捗状況についてもご意見をいただけるような形を考えています。

▼協働のまちづくりの公募型補助金の募集は年に二回ありますが、軽微な事業を対象に随時募集はできないのでしょうか。

▼継続事業に対する毎年審査などの取り扱いも含めて、多くのコミュニティ団体が使いやすい形での身を精査していきたいと考えています。

# 平成25年度 予算決まる

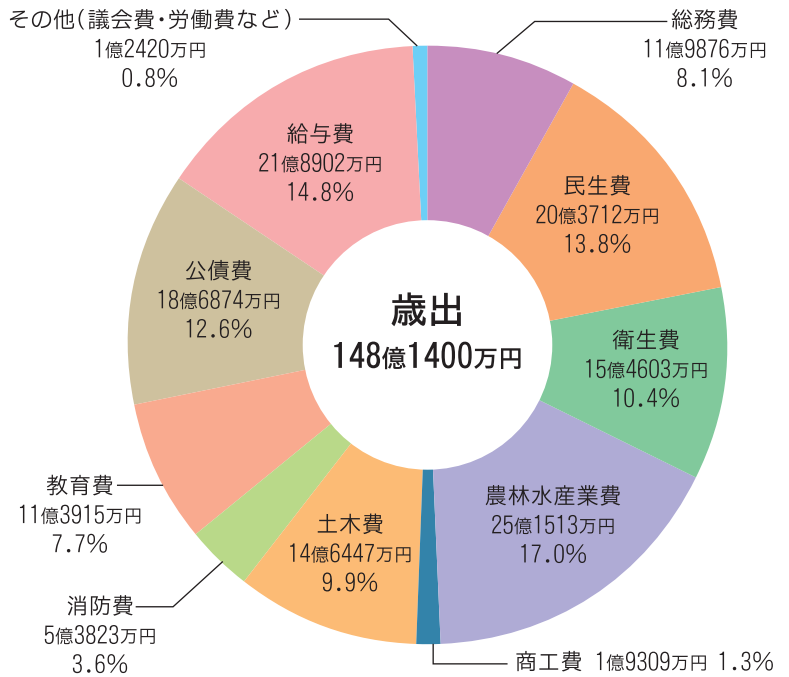
各会計予算総額	229億1547万円
一般会計	148億1400万円
特別会計	50億4510万円
企業会計	30億5637万円

## 特別会計予算

国民健康保険	24億7100万円
下水道事業	5億6520万円
介護サービス事業	9億5440万円
介護保険	9億1520万円
後期高齢者医療	1億3930万円

## 企業会計予算

病院事業会計	21億9941万円
水道事業会計	8億5695万円



※千円以下については切り捨てて表記しています

## 主な事業

■住宅用太陽光発電システム導入助成事業	1400万円	■未来につなぐ森づくり推進事業	999万円
■中春別福祉館改築事業	1億1000万円	■エコ型住宅新築増改築補助	2000万円
■児童遊園地遊具等整備事業	2703万円	■中国との経済交流事業	258万円
■エゾシカ被害対策事業	1581万円	■地域防災・津波避難計画等作成事業	1045万円
■第6次別海町総合計画見直し事業	181万円		

## 一般会計に対する 反対・賛成意見

### 反対意見

(中村忠士議員)

①町政の最も重要な徴税の問題を、滞納整理機構に丸投げしてはならないと指摘してきました。

②廃棄物処理広域連合負担金が年々増加しています。ごみの減量化や施設更新の基金などについて、方向性が出されていません。

③交流センターの保全計画に関する調査結果の情報をおだちに公開し、みんなで方向性を考えるべきです。

④環境保全型国営かんがい排水事業について、その成果を検証しないまま事業を進めてはなりません。

以上四点の問題点を指摘し、平成二十五年一般会計予算案に対する反対意見とします。

### 賛成意見

(佐藤初雄議員)

一般会計予算は前年度当初予算と比較し、〇・一ポイントの増ですが、景気低迷から脱却を目指す積極的な予算だと感じます。

その中で、地域会館の耐震化や尾岱沼消防分遣所改築に向けた取り組み、新たな防災計画策定や津波避難計画の策定など、地域の安全や防災に関連した予算が計上されています。また、各保育園の整備、学校の改築や耐震化など、福祉や教育基盤整備が実施されます。

さらに住宅用太陽光発電設置の助成、エコ型住宅補助など、地域経済の持続的な発展に効果的であると期待されます。

以上のことから本予算案に賛成します。

# 3月 定例議会

3月7日～15日開催

3月定例議会は、3月7日から9日間の会期で開かれました。審議のようすをお伝えします。



耐震強化工事が一年前倒して始まることになった中春別中学校

◆別海町介護保険法に基づく指定地域密着型サービス事業の人員、設備及び運営に係る基準に関する条例

◆別海町介護保険法に基づく指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防

条例を制定  
しました

サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例

◆別海町介護保険法に基づく指定地域密着型介護老人福祉施設の指定に係る入所定員等に関する条例

厚生労働省令の基準に基づき実施していた各種サービスなどについて、地域主権改革一括法の施行に伴い、基準を条例で定めることが

必要になり、新たな条例を制定しました。

◆別海町新型インフルエンザ等対策本部条例

昨年五月に公布された、新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づき、町が設置する対策本部に関する必要事項を定める新たな条例を制定しました。

◆尾岱沼ふれあいキャンプ場条例

◆別海町ふれあいランド条例

いずれも、施設や備

条例を一部  
改正しました

◆別海町営畜牛育成牧場の設置及び管理に関する条例

預託牛等に係わる、育成牧場使用料の改正に伴い、改めました。

## 平成24年度 補正予算概要

補正額 予算総額

一般会計（7回目の補正）  
4億6840万円 増 156億9590万円

一般会計（8回目の補正）  
4240万円 増 157億3830万円

国民健康保険特別会計（2回目の補正）  
8820万円 増 24億9940万円

下水道事業特別会計（2回目の補正）  
1770万円 減 5億1250万円

介護サービス事業特別会計（2回目の補正）  
1910万円 減 8億9480万円

介護保険特別会計（2回目の補正）  
7370万円 減 8億6060万円

後期高齢者医療特別会計（1回目の補正）  
280万円 減 1億3890万円

病院事業会計（1回目の補正）

〈収益的支出〉  
2657万円 減 24億7787万円

〈資本的支出〉  
4543万円 減 6億2791万円

水道事業会計（3回目の補正）

〈収益的支出〉  
1272万円 減 4億9116万円

〈資本的支出〉  
1450万円 減 3億1979万円

### ■一般会計の主な補正（歳出）

- 特定防衛施設周辺整備調整交付金基金事業（基金積立） 5436万円増額
- 国民健康保険特別会計繰出金 8722万円増額
- 介護サービス事業特別会計繰出金 2200万円減額
- 病院企業会計繰出経費（負担金等） 5014万円減額
- 新規就農総合支援事業（助成金） 1275万円減額
- 公営住宅等整備事業（西春別駅前団地） 5964万円増額
- 中学校建物耐震改修事業（中春別中学校実施設計等） 1億8797万円増額
- 除雪事業経費（追加） 4000万円増額

### ■国民健康保険特別会計の主な補正（歳出）

- 診療報酬支払金 5900万円増額
- 高額療養費 1490万円増額

### ■介護保険特別会計の主な補正（歳出）

- 保険給付費 7370万円減額

### ■病院事業会計の主な補正（資本的支出）

- 医療機器整備事業費 4736万円減額

品の使用料を追加するため改めました。

◆別海町福祉施設条例  
中西別福祉館の一部改築に伴い、所要の条文整理のため改めました。



新装し「中西別ふれあいセンター」となった中西別福祉館

条例で定めていた十  
四か所の公衆トイレの  
見直しを行い、八か所  
は関係施設付帯のトイ  
レとして管理し、一か  
所（中西別）を廃止す  
ることにしました。

◆別海町立へき地保育  
園条例  
美原へき地保育園が  
閉園されたことに伴い、  
所要の条文整理のため  
改めました。

条例を廃止  
しました

◆町立別海病院特別対  
策基金条例  
◆別海町酪農畜産振興  
資金貸付基金条例  
以上二件の条例を廃  
止しました。

◆別海町公衆トイレ設  
置条例

◆別海町営住宅条例  
地域主権改革一括法  
の施行に伴い、公営住  
宅整備基準の規定を追  
加し、併せて、暴力団  
排除の推進と、福島復  
興再生特別措置法の制  
定に伴い、所要の条文  
整理のため改めました。

議会に関する条例  
を改めました

◆別海町議会委員会条



48年間の歴史を閉じた美原保育園

例の一部を改正する  
条例

昨年九月の地方自治  
法の改正に伴い、「常任  
委員会所属の義務」、「委  
員選任の時期」、「特別  
委員会の選任及び在任  
期間」について、条例  
で規定する必要がある  
ことから所要の条文整  
理のため改めました。

◆別海町議会議規則  
の一部を改正する規  
則

昨年九月の地方自治  
法の改正に伴い、従来、  
委員会でのみ認められ  
ていた公聴会の開催お

よび参考人の招致が、  
本会議においても認め  
られたことから、現行  
の会議規則に「公聴会」、  
「参考人」の規定を追  
加し、改めました。

選挙管理委員・補充  
員を選出しました

選挙管理委員および  
補充員の任期満了に伴  
う選挙が行われ、次の  
とおり選出しました。  
任期は平成二十九年  
三月十八日までです。  
また、高崎好藏さん  
が委員長に互選されま

した。

◆選挙管理委員

高崎好藏(再)別海  
鎌田敦子(再)西春別  
永野英俊(再)尾岱沼  
廣島朋子(再)奥行  
補充員

松川 進(再)上風連  
三原眞佐子(再)別海  
阿部隆美(新)上春別  
櫻井 弘(新)西春別



再任された  
高崎 好藏 さん



再任された  
鎌田 敦子 さん



再任された  
永野 英俊 さん



再任された  
廣島 朋子 さん



TPP反対・地域を守れと1200人が中標津に結集しました（2012年6月）

**国・道に意見書を提出しました**

◆環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加に断固反対する意見書

提出者 小林 敏之 議員  
他三人

TPP協定は、我が国の農林水産業や農山

漁村に壊滅的な打撃を与えるばかりか、当町の一次産業の崩壊を招くものです。TPP交渉に断固反対する意見書が提出され、全員の賛成で可決しました。

◆平成二十五年度地方財政対策に関する意見書

提出者 総務文教常任委員会  
委員長 佐藤 初雄

平成二十五年度地方財政対策は、地方の要請に応えた事業などの積み上げは評価できま

すが、地方公務員給与削減の取り扱いは極めて遺憾です。国をはるかに上回る地方の行財政改革の努力を適切に評価せず、給与減額措置に準じて地方公務員給与の削減を求め、財政力の弱い団体ほど影響を大きく受けるもので極めて問題です。国が給与削減を強制

することは地方自治の根幹にかかわる問題であることから二度と行わないよう求める意見書を全員の賛成で可決しました。

◆安心してできる介護制度の実現を求める意見書

提出者 福祉医療常任委員会  
委員長 松原 政勝

介護保険制度は、数度にわたり法改正が行なわれ、今回「地域包括支援センターを中心とした地域ケア体制の構築」、「二十四時間サービスの導入」、「介護福祉士の医療行為の導入」などが盛り込まれまし

た。家族の介護負担の軽減につながる状況を早急に改善し、利用者本位の制度改善を強く求める意見書が提出され、全員の賛成で可決しました。

**第1回 臨時議会**  
1月23日開催

1月23日に行われた臨時議会で審議・決定された事項は次のとおりです。

**委員の任命に同意しました**

◆教育委員の任命

任期満了に伴い、真籠毅さん（別海）を新任、伊勢浩子さん（尾岱沼）を再任することに同意しました。

任期は、平成二十九年二月十五日までの四年間です。

**教育長が代りました**

平成十七年二月から二期八年間務めた山口長伸教育長が、平成二十五年一月十五日をもって任期満了となり勇退しました。

真籠毅さんが新たに教育長に就任しました。



再任された伊勢 浩子 さん



新任された真籠 毅 さん

# 議会だよりモニターに聞く

二月十三日に広報委員会と議会モニターの皆さん（羽石さん鈴木さん）との意見交換会を行いました。今年度の締めくくりとして行った意見交換会の内容をお知らせします。

## 議会だよりの概要・編集方針

最初に広報委員から編集方針や編集作業で心がけていることなどを説明しました。

## 「議会だより」が出来るまで

「議会だより」は年四回発行しています。定例議会、委員会活動、議会の動きなどを掲載しています。

## 編集作業でのルール

送りがな、ひらがな、漢字の使い方を統一しています。敬語、謙譲語などを正しく使用するようにしています。校正は、誤字・脱字

のほかに、文章の言い回しが発言趣旨に合っているか検討しています。

校正をしつかり行い、読みやすい紙面になるように取り組んでいます。

## さらに読みやすい紙面をめざして

町村会主催の広報研修会に参加し、編集作業の研修を行っています。

また、「クリニック」※を受けて議会だよりの添削を受けています。情報発信と情報共有のために町民参加を心がけています。議会モニター制度もその取り組みの一つです。

※「クリニック」  
講師が広報紙の改善点を示しながら講義すること。

## 議会だよりに ついでに感想

### 広報委員

五十八号から「志を受け継ぐ」というシリーズにしていますが、表紙の感想は。

### 羽石

議会だよりは堅いというイメージがあるが、表紙が柔らかいと親しみやすいです。

### 広報委員

役所言葉をできるだけ使わないように気をつけています。

記事内容についてはどうでしょう。

### 羽石

記事内容も、議会としての判断を載せているし、文章についてもわかりやすいです。字が大きく読みやすく、色使いも良いと思います。

### 鈴木

意見書に関して、提出者の名前はありますが、賛同者の名前が分からないので、改善が必要では。

## 議会報告会について

### 鈴木

意見交換の時間を増



議会広報委員とモニターとの意見交換会が行われました（左が羽石さん、右が鈴木さん）

ました。

### 羽石

団体として登録すること、本来の目的でないことも頼まれることがあります。少ない人に集中的に負荷がかかってしまうのが問題だと思っています。

### 鈴木

無償で行うのがボランティアという考え方もありますが、有償ボランティアという制度を考えてはどうでしょう。

## 最後に

鈴木さん、羽石さん一年間ごころうさまでした。

初めての取り組みで試行錯誤の一年間でしたが、来年度はモニターの人数を増やして、より一層の情報共有と町民参加を心がけていきます。

# 町政の ここが聞きたい

3月定例議会で3日目(3月11日)に5議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。詳しい議事録はホームページに掲載します。



受診率を上げることで町民の健康が守られる(特定健診の会場)

## ■中村忠士 議員……………9

- 1 スクールソーシャルワーカーの導入を
- 2 TPPに参加した場合の影響は
- 3 健康診査の受診率を高める対策は

## ■西原 浩 議員……………10

- 1 中国との経済交流事業の目的は
- 2 町独自のTPP対策本部を設置すべきです
- 3 バイオマスタウン構想の今後の取り組みは



不登校の子どもたちをサポートするふれあいルーム

## ■木嶋悦寛 議員……………11

- 1 学校として、障がいのある子どもたちの支援は



3月に行われたTPP参加反対を訴える根室町村会の中央要請

## ■瀧川榮子 議員……………12

- 1 食物アレルギーの子どもたちへの対応は
- 2 就学援助事業適用拡大の状況は



給食調理の下ごしらえをするセンター職員



厳しい状況の中、少人数で工事に従事している地元業者

## ■森本一夫 議員……………13

- 1 行政執行方針の中から、農水、商工の振興策および高齢者施策の充実は

詳しくはホームページをご覧ください

別海町議会

検索



中村議員

## スクールソーシャルワーカーの導入を

教育長 中央小に学識経験者を一名増員配置します

質問

いじめや引きこもり、不登校、ネグレクトを含めた児童虐待などの問題が起きています。教育分野の知識に加えて、社会福祉などの専門的知識、技術を持ったスクールソーシャルワーカーの導入を早急に検討すべきでは。

真籠教育長

教育支援センター（ふれあいルーム）を設置し、専門指導員、スクールカウンセラーを配置

しています。また、学校現場には特別支援コーディネーターや養護教諭を配置しています。

しかし、教育行政の枠を超えて福祉、医療部門などと連携してサポートしていく必要があると考えています。

まず学校と家庭、関係機関と連携を図るため、平成二十五年度から中央小学校に学識経験を一名増員配置し、拠点校として子ども支援の体制づくりに取り組んでいきます。

質問

教育局の人事要項による機械的人事で、長距離通勤を余儀なくされ、通勤や子育てに困難を感じる先生が増え

てきています。実態を調査していますか。

真籠教育長

異動について教職員の要望をあげてもらい調査をつくっているの

で、状況は把握しています。

長距離通勤する先生方の苦勞を含め、詳細に把握することは必要だと思

質問

教育委員会議の議事録公開は。

真籠教育長

新年度から公開する予定です。



入学式を迎えた新中学一年生 健やかに成長してほしい

中村議員

## TPPに参加した場合の影響は

町長 当町の酪農畜産は壊滅し、二千九百人の雇用が失われます

質問

日本がTPP（環太平洋連携協定）に参加した場合、当町にどのような影響が出ると考

えていますか。

水沼町長

町内の加工向け生乳はほぼ輸入原料に置き

換わり、生乳生産農家が壊滅する状況になります。

また、酪農家が供給する肉畜および個体販売も壊滅的な打撃を受けます。

平成二十四年度実績で、生乳販売額四百十八億円、肉畜および個

体販売額八十億円がゼロになります。

酪農畜産業の壊滅に伴って、農業従事者である約二千九百人の雇用が失われ、町内の乳業会社を含む関連産業にも広く波及するため、その影響は計り知れません。

中村議員

## 健康診査の受診率を高める対策は

町長 助成の拡大、保健師の訪問などを実施します

質問

当町の国保特定健診は三九・三％、後期高齢者健診は八・三％の受診率です。全道的に見て何番目ですか。

佐藤福祉部長

国保特定健診は百七十九市町村中四十四番目、後期高齢者健診は八十番目です。

質問

当町の受診率は減少傾向にあります。受診率を高める対策は。

水沼町長

新年度から六十歳の受診助成を六十一歳まで拡大します。保健師の訪問、広報やチラシでの周知、個別通知、電話連絡など、あらゆる機会を活用して受診の奨励をしていきます。

中村忠士議員



西原 浩議員



## 中国との経済交流 事業の目的は

町長 地場産品の販路、観光の振興、人材・文化の交流です

**質問** 日中関係は尖閣問題で政治的に緊張状態です。また、PM2.5により大気汚染が深刻で、環境問題も心配されます。

本年度も中国との経済交流事業を計画していますが、その目的は。

**質問** 農林水産省のホームページで、「現地市場の食文化や消費者の嗜好や商習慣を知



前回行われた中国との経済交流事業の様子

**質問** 日に日に情勢は変化しています。素早く対応するためには組織を立ち上げて準備すべきで

**質問** 昨年、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が施行されました。今後バイオガス発電が普及していくと考えられます。

**質問** 有田産業振興部長 当町で民間企業がバイオマス発電施設の建設を検討しています。地域の環境向上に寄与する施設としてとらえています。

**水沼町長** 実際に現地を訪れて、見て、聞いて、肌で感じるものが大切です。相手方と面談をして、その中でお互いに信頼性が持てるかどうかが重要です。

**水沼町長** ある程度の準備は必要と考えますが、我々はまだ一回しか行っていないので、実際に行つて関係者と意見交換をして現地を見定める。そのことによりいろいろな計画が出てくると思います。

**水沼町長** 農林水産業への影響試算の情報はありませんで、道庁、近隣市町、関係団体と歩調を合わせて情報収集に努めています。現在のところ当町独自で設置することとは考えていません。

**質問** 昨年、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が施行されました。今後バイオガス発電が普及していくと考えられます。

**有田産業振興部長** 当町で民間企業がバイオマス発電施設の建設を検討しています。地域の環境向上に寄与する施設としてとらえています。

**質問** 中国は、政治体制、宗教、法規制、商慣行などが日本と違います。海外展開を否定するつもりはありませんが、市場調査、統計分析などをして慎重に進めるべきです。

**水沼町長** ある程度の準備は必要と考えますが、我々はまだ一回しか行っていないので、実際に行つて関係者と意見交換をして現地を見定める。そのことによりいろいろな計画が出てくると思います。

**水沼町長** 農林水産業への影響試算の情報はありませんで、道庁、近隣市町、関係団体と歩調を合わせて情報収集に努めています。現在のところ当町独自で設置することとは考えていません。

**質問** 昨年、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が施行されました。今後バイオガス発電が普及していくと考えられます。

**有田産業振興部長** 当町で民間企業がバイオマス発電施設の建設を検討しています。地域の環境向上に寄与する施設としてとらえています。

**水沼町長** 地場産品の販路、観光の振興、人材の交流、文化の交流などを模索するための視察調査事業です。

ることが大事である。まずは国内や海外で開催される展示会や見本市に出展し、輸出に必要なノウハウを体得すべきである。」と、準備の必要性をレポートしています。

**西原議員** 町独自のTPP対策本部を設置すべきです

**町長** 対策本部の設置は考えていません

**質問** 安倍首相は、環太平洋連携協定（TPP）に参加する意向を表明しました。

**水沼町長** TPP交渉参加を絶対阻止するという地域の意思は表明します。スピード感を持って今後の事態をしつかり注視し、対応します。

## 西原議員 バイオマスタウン構想の今後の取り組みは

産業振興部長 バイオガス発電や太陽光発電の取り組みを推進します

木嶋議員

## 学校として、障がいのある子どもたちの支援は

教育長 個別支援計画のもと、継続したサポートを考えています

質問

障がいのある子どもたちの放課後の過ごし方や余暇活動への参加など、本人らしく生きていくために、学校や地域が果たす役割は大きなものがあります。どのような支援を考えていますか。

真籠教育長

特別支援教育においては、一人一人の障がいの種類、程度に配慮しながら個別の支援計画を作成しています。



木嶋悦寛議員

学校はもちろん、地域の協力をいただきながら、継続したサポートを考えています。

質問

ノーマライゼーションを実現させるためには障がいがあるがままに当たり前に受けとめる心を育てることが大切です。今後、学校教育としてどのように取り組めますか。

真籠教育長

障がいの有無にとらわれず全ての児童生徒を、教育の効果に配慮したうえで、地域教育の場に組み込んでいくことが必要です。個別のニーズに可能な限り応え、ノーマラ

イゼーションを推進していきます。

質問

不登校の子どもが増えているとのことですが、臨床心理士の活用と、学校カウンセラーの現状は。

真籠教育長

何らかの心的、情緒的、あるいは社会的要因によって登校しなくてもできない児童生徒が増えています。現在確認している不登校児童生徒は7名います。長期の欠席から不登校へと移行している状況があるため、関係機関との連携を強化して早期な対応を考えています。

また、ふれあいルームに指導員、スクールカウンセラーを配置して、学校に行けない心的要因を、時間をかけて取り除きながら学校復帰に向けた支援を行っています。

行っています。

さらに臨床心理士を活用して、幼児期の発達障がいの状況を把握し、対応を進めたいと考えています。

小1プロブレム、中1ギャップ、高1クライシス※と言われる発達ステージのつなぎの部分に課題が多い現状から、本年度、別海中央中学校を拠点校として、中1ギャップに関する調査研究を実施しており、結果を全学校に反映していきたいと考えます。

質問

町の協働のまちづくり補助金を受け、当町二漁協の共同事業として、独自に実施されてきた「魚のさばき方出前授業」は、食育の一環として、地場産業の学習として継続してほしい事業と考えます。事業の支援や事業実施についての考えは。

真籠教育長

四年ほど前から、町内の小学校でサケ魚の仕組みと魚のさばき方についての講習を野付、別海漁協青年部に実施していただきました。

また、別海町女性農業士会では、牛乳豆腐のつくり方の授業を別海、野付小学校で実施してきました。この事業は大切な活動であると認識しています。今後も団体の意向を踏まえながら、積極的に支援していきたいと考えられています。



漁協青年部の皆さんによる魚のさばき方の授業風景  
生のサケを前に興味深く見つめる子どもたち

※小1プロブレム

小学校に入学したばかりの児童が、授業中に座っていられなかったり、集団行動がとれなかったりといった状態が続くこと。生活の中心が「遊び」から「学び」に変わるギャップの大きさが要因の一つとされる。  
中1ギャップや高1クライシスも環境の変化になじむことができず、いじめの増加や不登校になったりする現象。

瀧川榮子議員



## 食物アレルギーの子どもたちへの対応は

瀧川議員

教育部長 情報共有し、  
細心の注意を払っています

**質問**  
様々なアレルギーを持つ人が増え、昨年は小学五年生児童の死亡の報道がありました。当町では食物アレルギーを持つ子どもが全国と比較して高い割合

です。給食での除去食対応などの工夫は。

**大島教育部長**

給食のアレルギー対応は平成十七年度から試験的に実施しています。保護者へは毎年、幼稚園児、児童生徒全員を対象にアレルギー除去食・代替食希望調査を実施しています。

職員会議で養護教諭と連携して、情報共有できる体制をとっています。調理過程でのチェック、誤配の無いよう細心の注意を払っています。

**質問**

食品によってアナフィラキシーショック※症状が出た場合、子どもが自己注射できない状況は十分に考えられます。緊急時に教師が手順通り子どもに注射を打つことができるか、確認が必要で、学校の危機管理体制は。



安心・安全の学校給食のため日夜努力する給食センター

**大島教育部長**

在校中は注射器を預かり、不測の事態に備えています。

各学校に食物アレルギーによるアナフィラキシーショック対応マニュアルを配布し、適正な対応と注意喚起を行っています。

注射を打つ手順も示されており、緊急時にも対応できると考えています。

学校、学級ごとにアレルギーの子どもの情報を共有しています。

**質問**

牛乳は必要な栄養分として週五日出ています。お茶や水では代替できません。

代替食として豆乳、ヨーグルト、チーズなど検討が必要です。

**真籠教育長**

健康な子どもたちへの「アレルギー食」に対する教育も必要と思います。

いろいろな課題はありますが学校、給食センターと協議しながら取り組んでいきます。

**質問**

平成十九年度のアンケート調査では、当町の食物アレルギーは全国平均の四倍です。この結果を受け、町として検証する必要があると考えます。研究者の協力を仰ぐことも必要になると思います。

**大島教育部長**

学校、保護者、医師、それぞれの立場で情報を収集し、医学的観点、学校の現状を含めて検討したいと考えています。

## 瀧川議員 就学援助事業 適用拡大の状況は

教育部長

動向を見極め進めていきます

**質問**

平成二十二年度から就学援助の補助対象にクラブ活動費、生徒会費、PTA会費が追加されました。適用拡大に向け検討すると昨年六月議会で答弁がありました。

当町の準要保護生徒数は管内で最低の水準です。

検討結果を早くだし、就学援助の事業を広く周知してください。

**真籠教育長**

管内では根室市が十四年度から実施しています。

全道的にも三分の一以上の自治体が適用を受けています。

道教委では公費と私費の取り扱いについて保護者負担の軽減を図る観点から、PTA事業などの見直しの検討を予定しています。

それら今後の動向を見極めて進めていきます。

※アナフィラキシーショック  
激しい症状を引き起こすアレルギー反応。

議員 森本  
行政執行方針の中から、農水、商工  
振興策および高齢者施策の充実は

産業振興部長

農業と漁業の共存共栄に向け  
環境行政を具体的に進めます

質問

昨年おきた家畜ふん尿流出事故は、適切な処置がとられたものの、大変憂慮される事態でした。

国政がTPP交渉の参加に前向きな状況下、飼養頭数増で経営基盤を拡大し、安定化を考えている酪農家もいます。

昨年の事故を教訓に今後の防止具体策は。

有田産業振興部長

管理の不備や施設の老朽化などで家畜ふん尿流出事故が散見しています。

平成二十一年年度から家畜排泄物等流出事故対応指針を作成し、非常時における連絡対応体制の整備を行っています。

また、平成二十二年からは破損など事故が懸念される施設の緊急保全対策事業を実施しています。

さらに、昨年の事故を受け、別海町家畜排泄物管理適正化指導チームを設置し啓蒙、指導はもとより巡回パトロールによる監視強化も実施しています。

森本一夫議員

また、大学機関関連事業により、酪農学園と連携を深め、研修会や意見交換会を開催し、啓蒙、指導を深めていきます。

当町の基幹産業である農業、漁業との共存共栄に向け、平成二十五年年度をめどに具体的な水環境に配慮した対策を立てます。

質問

別海市街地には、空き店舗や空き地が目立つようになりました。

平成二十一年三月に中小企業振興基本条例が制定され、今年一月に検討会議が設置されました。

官民が協力して市街地整備を進めるべきと考えます。行政はどのような施策を考えていますか。

水沼町長

今年一月に別海町中小企業振興検討会議を

設置し、今日まで四回会議を開催しました。第六次総合計画の中で、市街地整備がうたわれていることから、多くの意見を参考に、整備計画作成を検討します。

具体的には策定される指針に基づき実施します。

今後、経営基盤の強化対策、再投資力強化など、有効的で実効性のある施策を展開します。

質問

個人企業に対しての施策は。

水沼町長

個人経営者も含めて検討会議の中で提案されると思います。

自治体や商工業の活性化につながる事には積極的に対応します。

質問

当町の福祉政策は、福祉牛乳をはじめ、バス券、タクシー券、入



不況のため廃業しさら地となった店舗跡地

浴券など他町村に誇れる施策です。入浴券利用にあたり、日曜日は運行していないなど、バスの利便性が悪いとの声を聞きます。利用できる具体的な施策は。

佐藤福祉部長

平成八年に福祉入浴券給付事業実施規則を制定し実施しています。

本年度は二月末では高齢者二千三百六十九人、障がいを持つ方百三十四人、合わせて二千五百三人交付しており、八〇%前後の利用状況です。

福祉入浴券を利用できる施設の事業者と協定を結び実施しています。

送迎や巡回車両の運行など、福祉入浴券の利用者増に向けた対応策として、協定の際に提案していきます。

12月定例議会から3月定例議会の間に行なわれた各常任委員会の活動を要約してお伝えします。

## 総務文教 常任委員会

### 元気臨時交付金

政府の大型補正予算による事業で、今回限りの特例措置です。道営道路、農業基盤、水産業基盤、公営住宅・校舎などの耐震改修に対し、当町へ約二億円交付されます。

### 小中学校の適正配置計画

昨年度アンケート調査を実施し、さらに地域説明会を行い要望や意見を聴いたとの説明でした。(アンケートの回収率は二〇%)。地域と子どもたちの将来を考えながらの慎重な議論が必要です。

- |      |      |
|------|------|
| 委員長  | 佐藤初雄 |
| 副委員長 | 戸田憲悦 |
| 委員   | 安田輝男 |
| 委員   | 今西和雄 |
| 委員   | 森本一夫 |



地域と子どもの将来について深く考えた学校適正配置計画の地域説明会

重なる議論が必要です。

### 子どもたちの生き抜く力の醸成

子どもたちの発達段階での不適応が近年多く見られるため、子どもたちにとっての安全安心の居場所と地域や人との絆を強化・確立することが必要です。その体制作りを別海中央小学校、中学校、

上西春別小学校、中学校で実施する予定です。

教職員研修が喫緊の課題となっており、組織的研修モデルの導入などを行う予定です。

町内の小中学校の学力状況は、管内の平均以上の科目もあり、管内・全道平均を超えて全国平均以上をめざすとしています。

体力については小学生の四割、中学生の二

割が運動能力維持に課題があります。

また、近年は半数の生徒が読書していないとの報告もあります。

### 文科省から表彰

教育委員会が推進している「早寝早起朝ごはん・テレビを止めて外遊び運動が全国的に評価され、文部科学省から表彰されました。

## 福祉医療 常任委員会

### 保健師の業務について

近年法律が整備され、保健師のほか分野ごとに、介護福祉士、社会福祉士、理学療法士、訪問看護師、介護ヘルパーなど分業化され、より専門的なサービスを提供できるようにな

- |      |      |
|------|------|
| 委員長  | 松原政勝 |
| 副委員長 | 西原浩  |
| 委員   | 渡邊政吉 |
| 委員   | 山田信  |
| 委員   | 瀧川榮子 |
| 委員   | 木嶋悦寛 |

りました。

現在当町は、保健指導に従事する保健師八人、その他業務に従事する保健師三人で保健指導などの活動をしています。

乳幼児健診、新生児検診はほぼ一〇〇%の受診率となっています。生活習慣病の若年化

### 公園などの遊具整備状況

が深刻な状況で、科学的根拠に基づく保健指導のレベルアップに努めています。

児童公園などで危険あるいはふさわしくないと指摘された遊具は、昨年夏以来使用中止の措置をとっています。

平成二十五年度はこれらの遊具を撤去し、新しいものに取り替え

## 産業建設 常任委員会

委員長 小林敏之  
副委員長 沓澤昌廣  
委員 中村忠士  
委員 戸田博義  
委員 安部政博  
委員 松壽孝雄

### べつかい乳業興社への調査

二月十八日、べつかい乳業興社への所管事務調査を行いました。まず、中村専務より(株)べつかい乳業興社の現状について説明を受けました。

①平成二十四年度の収支状況については税引前損益として二千万円程度の利益を見込んでいます。  
②平成二十五年度の学校給食牛乳については前年度と同じ一市五町(根室・別海・浜中・弟子屈・釧路・厚岸)の落札を得ました。



べつかい乳業興社の経営状況を調査する産業建設常任委員会

以上が説明の主な内容です。その後、各委員から「台湾輸出アイスクリーム」の状況は、「町内で乳業興社の商品を扱っている店舗が分からない」との苦情があるが、「などの質問がありまし

た。これに対し興社から「輸出先の事情により進んでいないが現在も継続中。」「販売店舗や興社販売のPRを積極的に言うなど、町内販売店舗への働きかけを強化する。」との回答がありました。

別海町らしい牛乳・乳製品の製品化と販売など、将来戦略をどうしていくのかについて、

今後、高年齢世帯が増加することが予想されます。

### 配食サービス事業の現状

高年齢者および障がい者の調理が困難な世帯を対象として、一日一食・週五食以内で食事を提供するサービスが実施されています。

今後、高年齢世帯が増加することが予想されます。

るなど、整備を進めま

れますが、サービスの範囲と形について方向性を考えていくことが必要です。



配食により安否確認も行われています 協力：川上町たすけあいチーム (本人の了承を得て掲載しています。)

### 国営かんがい排水事業などの調査

同日午後、産業振興部からの諸説明を受けました。

①国営環境保全型かんがい排水事業・別海北部地区については、事業の前倒しが政府より示され、平成二十四年度補正予算として一億円の増額が見込まれている。

②民間業者(三井造船)によるバイオマス発電プラントが、平成二十六年十二月開業の方向で進んでいる。

# 議会のうごき

## ねむろバイオマスフォーラムが 開催されました (2月8日 別海町)

最初に、北海道バイオマスリサーチの竹内氏が、全道におけるバイオガスプラントの現状について講演しました。

普及促進の取り組み事例として、バイオガス産業の構築に向けて進められている、帯広

畜産大学と帯広建設業協会の共同開発事業を報告しました。

- ①地域の専門家の育成
- ②自治体、利用者、地域住民によるマスタープランの作成
- ③地元企業による運転メンテナンス・組織を構築し、低コスト化の

実現

- ④バイオガスプラントの高付加価値化(売電・熱利用・消化液の利用)などの内容です。

次に、北海道大学の松田教授が、バイオガスプラントの建設について講演しました。

- ①悪臭の低減
- ②消化液散布による化学肥料の削減
- ③消化液固形分の敷料

への利用

- ④温室効果ガス削減
- ⑤売電収入

を提唱しました。

建設の課題は、バイオガスプラント事業の採算性、事業の継続性で、そのため、固定価格買い取り制度が期待されているとのことです。

また、バイオガスの利点としては、ガス貯蔵が比較的簡単にできる、必要な時に発電できることです。ドイツやデンマークなどの先進国では、需

要に応じて発電すると、買い取り価格を高額にして、再生可能エネルギーの普及を促進しているという報告もありました。

酪農の持続的発展のためには、適切なふん尿処理など環境に配慮した対応が必要です。いろいろな課題がありますが、バイオガスプラントの安定した運営と、技術的な確立が望まれています。

(西原浩議員)



専門家を招いてバイオガスプラントの現状が報告されました

## 環境と産業発展の道をさぐる 水環境と畜産環境を考える研修会

(2月19日 別海町)

町の主催で役場会議室を会場に「水環境と畜産環境を考える研修会・意見交換会」が開かれました。

町内において家畜ふん尿の河川への流出事

故や不適切な散布が行われたことから、町全体で環境問題を考える必要があるとのことから開催されたものです。

前半、酪農学園大の

前田善夫教授と吉野彦彦教授の二人の先生による講演が行われました。

前田教授は、「面積あたり飼養頭数の基準やふん尿散布量の上



を明確にすること、農家の管理計画と点検が必要ではないか。」と提言されました。

また、吉野教授からは、「多頭・多乳量の農家が必要としても農業所得（収入から経費を引いたもの）が高いとは限らない。多乳量でなくとも飼料・肥料その他の経費を低くして経営を安定させている農家もあり、経営安定の要素を細かく見ていく必要があると思う。」との調査結果を踏まえての意見が述べられました。

後半の意見交換では、「環境問題では川上（農家）と川下（漁家）が手を結んでいかなければならないが、問題は解決していない。何十年も同じ話をくりかえしているのは情けない」（漁業関係者）という厳しい意見も出されました。最後に司会をつとめ



産業の発展と環境問題は町の将来にとって基本となる問題です

た干場信司教授（酪農学園大）は、「環境に優しい酪農経営が安定した経営だし、満足度も高いというデータ結果が出ています。」とまとめました。

発展させるとは何か。深く考えさせられる研修会でした。こうした研修会・意見交換会が継続的に開催されていくことが大事だと思いました。

（中村忠士議員）

## 一部事務組合・広域連合議会報告

2月28日中標津町議会議場で、一部事務組合および広域連合の定例議会が開催されました。各議会とも平成25年度一般会計予算について審議され、全ての一部事務組合議会、広域連合議会が全会一致で可決しました。

なお、根室北部廃棄物処理広域連合では、一般廃棄物処理施設の技術管理者の資格を定める条例、平成24年度一般会計補正予算についても審議され、全会一致で可決されました。

### 平成25年度 一般会計当初予算額

中標津町外2町葬斎組合	3億6788万円（別海町負担金	4394万円）
根室北部消防事務組合	14億9868万円（別海町負担金	5億1794万円）
根室北部廃棄物処理広域連合	8億4177万円（別海町負担金	2億2025万円）

## 新人獣医師へ 技と心を伝えることが最大の地域貢献

根室地区農業共済組合 さくらい 櫻井 なおと 直人



根室地区の農業をサポートする旧中春別家畜診療所のスタッフのみなさん  
(右写真の前列左が市川弥生子獣医師、前列右が櫻井直人獣医師)

根室地区農業共済組合は根室管内に三センターがあり、獣医師九十八名、業務職員四十一名在籍しています。獣医師は乳牛肉牛の診療や繁殖検診を、業務職員は事務業務や畑作の共済業務などを行っています。写真の旧中春別家畜診療所は獣医師十三名、業務職員三名の計十六名が所属する大きな診療所でした。(四月二十二日より北部、南部両診療センターに分割統合されました。)

別海町は乳牛飼養頭数が十万頭以上いる、いわば「酪農の町」です。今までは男性ばかりであった大動物獣医師ですが、最近は女性獣医師も増加してきました。昨年からの仲間入りをしたのが市川獣医師です。初対面の時は「腕力もなさそうだし大丈夫かな？」という印象でした。

しかし、一年経った今は、彼女持ち前の負けん気の強さでメキメキ技術を習得し、彼女よりも数倍大きな乳牛相手に日々奮闘しています。

日々の診療はもちろんです、新人獣医師を指導していくことも我々先輩獣医師の重要な責務と感じています。そうすることが、この酪農の町への最大の貢献と思ひ、これからも診療、指導してこうと思っています。

## 編集後記



中標津町で五人の命を奪った三月上旬の暴風雪災害からどのような教訓を得たのか。人的被害を抑えるため、警報発令時に自治体も携帯メールで注意喚起をとの提案があります。来年の冬も暴風雪が起きないとは言えません。道路管理者には防風林、防雪柵の効果的な対策を望みます。  
(松原委員)

三月に議員インターンシップで札幌の大学生を二週間受け入れました。  
インターン生と話していてあらためて気付かされたのは、議会と住民の情報共有がまだまだ不十分であることです。

インターネットでの選挙活動が認められる時代に、住民一人ひとりとどのように向き合うか、議会の積極的な姿勢が問われるところです。広報や広聴の充実に向け、精一杯取り組んでいきます。  
(木嶋委員)

私たち議会広報委員の任期もこの号の編集・発行を持って一応の終了期を迎えました。編集作業を終えほっとすると同時に、これでよかったのかと毎号思っていました。新しい試みとして「モニター制度」が実現しました。協力いただいたモニターさんには心より感謝です。ありがとうございました。  
(中村委員)

つながり愛・ささえ愛・思い愛 震災からの復興をみんなの力で!!